

平成23年度 事業報告

自 平成23年12月1日
至 平成24年3月31日

公益財団法人日本障害者スポーツ協会

(目 次)

I 競技力向上対策の推進

1 競技団体に対する助成	1
2 競技別指導者養成事業	2
3 ジャパンパラリンピック競技大会の開催	2
4 アンチ・ドーピング活動の推進	3
5 医・科学サポート推進事業(旧科学支援推進事業)の実施	3

II 障害者スポーツの普及

1 競技別大会の実施	4
2 障害者スポーツ指導者の育成	4
3 地域における障害者スポーツの振興事業	5
4 第10回障害者スポーツセミナー	5
5 精神障害者スポーツ実態調査研究委員会	5

III 関係機関との連携等

1 国際組織との連絡調整	6
2 日本体育協会との連携強化	6
3 各協議会との連携	7

IV 財政基盤の安定・強化

1 国庫補助及び民間助成金の確保	7
2 オフィシャルスポンサー制度の見直し・拡大	7
3 寄附活動の推進	8

V 公益財団法人への移行

VI その他

1 障害者スポーツの広報	9
2 障害者スポーツを通じた被災地復興活動助成事業	9
3 会長表彰等	10

本協会は、公益法人制度改革に伴う法人移行を12月1日に行い、公益財団法人日本障害者スポーツ協会として生まれ変わった。(平成23年12月1日公益財団法人設立登記)

公益財団法人の事業は、法令の定めにより年度途中から開始することになり、そのため新法人の設立日である12月1日から年度末の3月31日までの4カ月間の事業報告となる。

当該4カ月間の事業について、定款に掲げる目的「障害者スポーツの振興とその他社会復帰に支援を図り、もってわが国障害者の福祉の増進に寄与する」を達成するために、旧財団法人に引き続き各種事業を実施した。

I 競技力向上対策の推進

1 競技団体に対する助成

(1) 配分方針

競技団体に関する助成は、旧法人と同様にパラリンピック等の実績による基礎配分と重点強化競技への配分にわけて実施した。

今年度の重点強化の配分は、ロンドンパラリンピックでのメダル獲得の可能性の高い競技を優先して実施した。

(2) 補助対象の具体的な項目

1) 強化合宿の助成状況

区 分	旧財団法人 (4月1日～11月30日)			新公益財団法人 (12月1日～3月31日)		
	団体数	事業数	総人数	団体数	団体数	総人数
肢体不自由、視覚障害関連競技団体	10	41	560	26	133	2,467
聴覚障害関連競技団体	2	9	161	18	109	1,544
知的障害関連競技団体	1	2	14	7	35	657
計	13	52	735	51	277	4,668

2) 世界選手権・ワールドカップ・その他国際大会への選手・役員派遣助成

競技別国際大会派遣の助成対象は次の通りである。

① 肢体不自由、視覚障害関連競技団体

【世界選手権大会】

競 技	大 会 名	開 催 期 間	開 催 地
陸上競技	IWAS 世界陸上競技大会 2011	平成 23 年 12 月 1 日～6 日	UAE シャルジャ
自転車	2011UCIパラサイクリング・トラック世界選手権	平成 24 年 2 月 9 日～12 日	アメリカ ロサンゼルス
アイススレッジホッケー	2012 世界選手権	平成 24 年 3 月 21 日～31 日	ノルウェー ハーマル

【ワールドカップ】

競 技	大 会 名	開 催 期 間	開 催 地
クロスカントリースキー	クロスカントリースキーワールドカップ第1戦	平成 23 年 12 月 5 日～20 日	ノルウェー スジュスジョエン

競 技	大 会 名	開 催 期 間	開 催 地
クロスカンリースキー	クロスカンリースキーワールドカップ第2戦	平成24年1月21日～2月4日	アメリカ テレマークリゾート ミネアポリス
アルペンスキー	IPCAS 障害者アルペンスキーワールドカップ	平成24年1月9日～2月5日	イタリア アルタ・ターム、スベ イン ラ・モリーナ
アルペンスキー	IPCAS 障害者アルペンスキーワールドカップ	平成24年2月29日～3月18日	アメリカ・オレゴン州、カナ ダ・アルバータ州

【地域選手権大会】

競 技	大 会 名	開 催 期 間	開 催 地
卓球	アジア・オセアニア卓球選手権大会	平成23年12月14日～22日	香港
5人制サッカー	2011IBSA ブライトサッカーアジア選手権	平成23年12月17日～26日	宮城県仙台市

②聴覚障害関連競技団体

【その他の大会】

競 技	大 会 名	開 催 期 間	開 催 地
アルペンスキー	第10回デフアルペンスキーヨーロッパ選手権	平成24年2月25日～3月5日	スイス ダボス

③知的障害関連競技団体

【世界選手権】

競 技	大 会 名	開 催 期 間	開 催 地
クロスカンリースキー アルペンスキー	2012 INAS ノルディック・アルペンスキー 世界選手権	平成24年2月27日～3月6日	トルコ エルズルム

2 競技別指導者養成事業

旧法人に引き続き、トップレベル競技者の発掘、強化のため、スポーツコーチの養成をした。また、不足している障害者スポーツ医、障害者スポーツトレーナー及び国際クラス分け委員を養成した。

3 ジャパンパラリンピック競技大会の開催

パラリンピックや世界選手権大会を目指すトップレベルの選手のために、引き続き国際組織のクラス分けや、国際組織の競技規則を適用したレベルの高い競技大会を開催した。（平成23年度12月～3月は下記の2競技を実施した。）

また、ジャパンパラリンピック競技大会の開催主旨が当初から大きく変化したこともあり、本年度は、根本から開催方針を見直すため検討委員会会議を実施した。

(1) 実施競技

1) クロスカンリースキー競技大会

期 間：平成24年2月17日(金)～19日(日)【3日間】

場 所：長野県白馬村 白馬スノーハープ

参加人数：31名(男子27名 女子4名)

トピックス：1998長野オリンピック・パラリンピック会場であった白馬スノーハープで行った。

2日間で9社(映像3社、紙媒体6社)延べ25名の報道陣が取材に訪れた。

ドーピング検査が(公財)日本アンチ・ドーピング機構によって行われた。

2) アルペンスキー競技大会

期 間：平成 24 年 3 月 22 日(木)～25 日(日)【4 日間】

場 所：長野県白馬村 白馬八方尾根スキー場

参加人数：51 名(男子 43 名 女子 8 名)

トピックス：海外から2カ国(オーストラリア・イラン)5名の選手がエントリーした。

IPC 公認大会として実施した。

強風、大雪の影響で、競技日程を大幅に変更した。

競技が行われた2日間で7社、延べ 32 名の報道陣が取材に訪れた。

ドーピング検査が(公財)日本アンチ・ドーピング機構によって行われた。

(2) 検討委員会会議(第 5 回)

期 間：平成 24 年 3 月 29 日(木)

場 所：東京シティ・エアターミナル

検討内容：開催目的の再確認、現在の実施競技の評価、今後の開催基準、開催に伴う組織体制の見直し、その他

4 アンチ・ドーピング活動の推進

(公財)日本アンチ・ドーピング機構により、下記ドーピング検査及びアンチ・ドーピング講習会を開催した。

1) 競技会検査

① 全日本ディスエイブルパワーリフティング選手権大会(12 月 東京都 2 検体)

② IPC 公認アイススレッジホッケー国際競技大会(1 月 長野県 8 検体)

③ 西日本障害者パワーリフティング選手権大会(2 月 名古屋市 2 検体)

④ JSFD 春季記録会(3 月 静岡市 2 検体)

⑤ 九州チャレンジカップ陸上競技選手権大会(3 月 熊本県 2 検体)

⑥ ジャパンパラリンピッククロスカントリースキー競技大会(2 月 長野県 4 検体)

⑦ ジャパンパラリンピックアルペンスキー競技大会(3 月 長野県 6 検体)

2) 競技会外検査(24 検体)

3) アンチ・ドーピング講習会の開催

① 日本ディスエイブルパワーリフティング連盟(12 月 東京都 内容:概論、TUE 申請)

② 日本聴覚障害者陸上競技連盟(12 月 神奈川県 内容:概論、検査手順、TUE 申請、ADAMS)

③ 日本デフバレーボール協会女子(3 月 東京都 内容:概論、検査手順、TUE 申請、ADAMS)

④ 日本デフバレーボール協会男子(3 月 滋賀県 内容:概論、検査手順、TUE 申請、ADAMS)

5 医・科学サポート推進事業(旧科学支援推進事業)の実施

各競技の選手強化の為に、医科学面における専門的な支援等を行った。

【支援・サポート内容】

(1) JPC・競技団体・サポートスタッフのネットワーク構築

(2) 動作解析:映像からフォームの確認、専用ソフトによる解析とデータの蓄積

(3) メンタル指導:専門スタッフを派遣しての指導

- (4) 体力測定：専門スタッフによる実施
- (5) 栄養指導：専門スタッフを派遣しての指導
- (6) データベース：上記に関する選手データ等の一元管理及び応用活用

Ⅱ 障害者スポーツの普及

1 競技別大会の実施

競技団体等との共催により障害者スポーツ普及のために次の大会を実施した。

(1) 第23回全国車いす駅伝競走大会

スタート日時：平成24年2月19日(日) 午前11時30分

区間・距離：5区間 21.3キロメートル(京都国際会館前 → 西京極陸上競技場)

出場チーム数：25チーム(21都道府県・市、1ブロック)

成績：1位 福岡県 2位 京都府A 3位 大分県B

被災地支援：東日本大震災の被災地からの出場を支援するため、岩手・宮城・福島ของทีม及び、その3県の選手を含む北海道・東北ブロックが出場する場合は、招待チームとし、旅費・参加料を実行委員会が負担する。

(2) 厚生労働大臣杯争奪第41回全国身体障害者スキー大会

日時：平成24年2月23日(木)～25日(土)

場所：岐阜県高山市 飛騨ほおのき平スキー場

参加数：大回転 24名 回転 22名

団体成績：1位 東京都 2位 群馬県 3位 神奈川県

2 障害者スポーツ指導者の育成

(1) 障害者スポーツ指導者養成事業

1) 初級および中級障害者スポーツ指導員養成講習会の認定

都道府県・指定都市、各県障害者スポーツ協会、その他関係機関が実施する初級および中級障害者スポーツ指導員養成講習会の認定及び後援を行った。

【認定件数】

① 初級障害者スポーツ指導員養成講習会 13/68都道府県・市
(平成23年4月から11月までの件数は55都道府県・市)

② 中級障害者スポーツ指導員養成講習会 0/3都道府県・市
(平成23年4月から11月までの件数は3都道府県・市)

2) 障害者スポーツ指導者の各種講習会の開催

障害者スポーツ指導者の講習会を次のとおり実施した。

講習会名		開催期間	場所	受講者数
中級スポーツ指導員養成講習会(1) (前期については、8月24日～28日に終了)	後期	平成23年12月14日～18日	福岡市	21名

講習会名		開催期間	場所	受講者数
中級スポーツ指導員養成講習会(2) (前期については、9月14日～18日に終了)	後期	平成24年1月20日～24日	名古屋市	31名
障害者スポーツトレーナー養成講習会 (1次(理論)については、10月8日～10日に終了)	2次 (実技)	平成24年2月10日～12日	横浜市	24名
障害者スポーツ医養成講習会		平成24年1月27日～29日	埼玉県	32名

(2) 資質向上のための研修事業

障害者スポーツ指導者の資質向上のために次の研修会を実施した。

研修会名	開催期間	場所	受講者数
障害者スポーツ指導員資格取得認定校研修会	平成23年12月5日	東京都	48校 55名

3 地域における障害者スポーツの振興事業

当協会公認の障害者スポーツ指導員を活用し、地域の特性を考慮したスポーツ指導等のモデル事業の実施及び次年度の事業内容についての検討会議を行った。

1) 埼玉県障害者スポーツ協会

事業名：埼玉県ふれあい地域振興事業(埼玉県における新たな分野での障害者スポーツの普及と障害者スポーツ指導員の活用)

内 容：障害者スポーツ教室・大会・交流イベントの実施(野球教室・フットサル大会・女子サッカー教室・ウォーキング大会・事業検討会議)

2) 福岡県障害者スポーツ協会

事業名：福岡県内における障害者スポーツ振興事業

内 容：スポーツ教室(知的障害児の水泳・バスケットボール、フロアバレーボール)、指導者の派遣(総合型地域スポーツクラブの基盤づくり、特別支援学校での普及・指導者派遣、障害者施設等での普及・指導者派遣)、全国大会の県代表選手強化のための指導者派遣、選手強化事業

3) 平成23年度地域における障害者スポーツ振興事業 第2回会議

日 時：平成24年3月1日(木)

場 所：中央区人形町区民会館 会議室

内 容：各モデル事業の報告(埼玉県・福岡県)、報告書の作成について、次年度の事業について

4 第10回障害者スポーツセミナー

日 程：平成24年3月8日(木)

場 所：東京都江東区 ホテル日航東京

内 容：基調講演「スポーツ栄養最前線」、ワークショップ「食事栄養」「テーピング法」「映像分析」、トピックス「ロンドンパラリンピック最新情報」

5 精神障害者スポーツ実態調査研究委員会

引き続き、次の委員会を開催した。

1) 第2回委員会

期 日：平成23年12月19日(月)

場 所：東京都中央区 人形町区民館 6階 会議室

内 容：アンケート調査送付・回収状況、調査集計報告及び検証、報告書の作成について、他

2) 第3回委員会

期 日：平成24年2月24日(金)

場 所：東京都中央区 人形町区民館 6階 会議室

内 容：報告書の内容確認、他

Ⅲ 関係機関との連携等

1 国際組織との連絡調整

1) 2011 IWAS総会

時 期：平成23年12月1日(木)～3日(土)

開催地：UAE シャルジャ

出席者：安岡国際調整係長

2) 2011 IPC総会

時 期：平成23年12月7日(水)～12日(月)

開催地：中国 北京

出席者：鳥原JPC委員長、中森JPC事務局長、安岡国際調整係長

その他：バンクーバー2010パラリンピック冬季競技大会のアイス・スレッジ・ホッケー日本チームに授与された「パラリンピック・スポーツ大賞」受賞式が12月10日(土)、ガーラ・パーティの席上で行われた。

2 日本体育協会との連携強化

1) 生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2012 の開催協力

期 日：平成24年2月10日(金)

場 所：秋田県秋田市 秋田ビューホテル

全体テーマ：「新たなスポーツ環境の創出に向けて」～スポーツに関わる当事者の責務・努力～トピックス

・秋田県障害者スポーツ指導者協議会の協力により展示ブースを出展した。

・本協会技術委員会が今後の協力体制の構築のため視察を行った。

2) 生涯スポーツ・体力づくり全国会議実行委員会

① 分科会打合せ

期 日：平成24年1月17日(火) 13:00～16:00

場 所：岸記念体育会館(日本体育協会) 会議室

内 容：生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2012 分科会について

② 実行委員会

期 日：平成24年1月25日(水) 10:00～12:00

場 所：文部科学省 会議室

内 容：生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2012 について

③ 実行委員会

期 日：平成 24 年 3 月 23 日(金) 9:00～12:00

場 所：文部科学省 会議室

内 容：生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2012 結果報告について

3 各協議会との連携

平成 23 年度障害者スポーツ協会協議会及び障害者スポーツ指導者協議会並びに障害者スポーツ競技団体協議会を下記のとおり開催し情報交換等を行った。

なお、今回は、障害者スポーツ協会協議会と障害者スポーツ指導者協議会を合同で実施した。

- 1) 平成 23 年度障害者スポーツ競技団体協議会(兼日本パラリンピック委員会加盟団体会議)の開催

日 時：平成 24 年 3 月 6 日(火) 12 時～17 時

場 所：ホテル日航東京会議室

参加数：57団体 94名

- 2) 平成 23 年度障害者スポーツ協会協議会・障害者スポーツ指導者協議会の開催

日 時：平成 24 年 3 月 7 日(水) 12 時～16 時

場 所：ホテル日航東京会議室

参加数：スポーツ協会 49団体 68名、指導者協議会 51団体 56名、県・市 21団体 26名

IV 財政基盤の安定・強化

1 国庫補助及び民間助成金の確保

事業実施に必要な体制整備のためには財政基盤の安定が不可欠である。国及び民間助成団体に対し、障害者スポーツの現況に理解を求め、必要な財源確保に努めた。

予算額(単位千円)

区 分	平成23年度	平成24年度	差引増△減額
国庫補助金	506, 731	830, 692	323, 961
福祉医療機構助成金	137, 960	74, 675	△63, 285
日本スポーツ振興センター助成金	80, 943	79, 555	△ 1, 388
JKA 助成金	21, 490	49, 148	27, 658
計	747, 124	1, 034, 070	286, 946

2 オフィシャルスポンサー制度の見直し・拡大

オリンピックをはじめとするメジャースポーツへの協賛とは異なり、パラリンピック協賛は社員教育や社会貢献活動の一環として位置付けている企業が多い。そのため、現行の協賛額はその対価として妥当であると考える企業が少なく、スポンサーへの参入に躊躇しているケースが散見される。そこで、このような企業が応援しやすくなるように協賛内容を見直すとともに、オフィシャルスポンサーの拡大に努めた。

■JPC オフィシャルスポンサー一覧

協賛カテゴリー	企業・団体名
JPC オフィシャルパートナー(6 社)	ヤフー株式会社 日本航空株式会社 JA 共済連 トラスコ中山株式会社 西濃シェンカー株式会社 田中貴金属グループ*
JPC オフィシャルサポーター(14 社)	カリフォルニア・レーズン協会 日野薬品株式会社 株式会社富士住建 株式会社グロリアツアーズ 株式会社 JTB 法人東京 大塚製薬株式会社 ビタカイン製薬株式会社 株式会社シーエーシー 株式会社福祉施設共済会 株式会社ティーガイア 株式会社アルファテック・パシフィック 全労済 リーフラス株式会社 株式会社コメ兵*
ジャパンパラリンピック公式サポーター(1 社)	株式会社トクホン

注) * 印は平成 23 年 12 月 1 日以降に新規オフィシャルスポンサーになった企業・団体。

3 寄附活動の推進

(1) 寄附活動

従来からの寄附の継続を依頼するほか、パラリンピックメダル受賞者に対する報奨金及び選手の育成強化のための寄附活動を行った。

平成 23 年 12 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日までの実績

パラリンピック募金	5 件	81,500 円
寄附金	35 件	47,024,088 円
募金・寄附合計	40 件	47,105,588 円

(2) 東京マラソンチャリティー“つなぐ”

平成 23 年度東京マラソン 2012 では、開催前イベントにおいて障害者スポーツの広報ブースを設置し、広く周知活動を行った。

また、大会当日は、チャリティーランナーへの感謝の意を込め、ゴール地点でのランナーへのサポート業務に協力した。

(3) 大阪マラソンチャリティー募金

東日本大震災の津波により、障害者スポーツ教室で使用していたシーカヤックが全艇流失した。そこで教室再開のためのシーカヤック購入費の 1,138 千円を助成した。

V 公益財団法人への移行

公益財団法人への移行については、11 月 25 日付で公益財団法人としての認定を受け 12 月 1 日に公益財団法人の設立登記を行った。

新法人への移行に伴い、理事の補充、諸規程の制定等を行い公益法人制度改革の主旨にそった運

営が行える体制の整備を行った。

なお、具体的な理事会の開催等は次のとおりである。

1) 第1回臨時理事会(文書提案)

通 知:平成23年12月7日(水)

回 答:平成23年12月12日(月)

審議事項:第1回臨時評議員会の招集案(開催時期、開催場所、議案)

2) 第1回臨時評議員会の開催

日 時:平成24年1月20日(金) 13時30分～

場 所:東京シティ・エアターミナル(T-CAT) 1階会議室

審議事項:理事の選任、名称変更に伴う諸規程の制定等

3) 第2回臨時理事会の開催

日 時:平成24年1月20日(金) 15時～

場 所:東京シティ・エアターミナル(T-CAT) 1階会議室

審議事項:人事案件、旧法人事業・決算報告、新法人の事業計画・予算、諸規程の制定等、
第2回臨時評議員会の招集

4) 第2回臨時評議員会の開催

日 時:平成24年2月21日(火) 13時30分～

場 所:東京シティ・エアターミナル(T-CAT) 1階会議室

審議事項:旧法人の事業報告・決算、資金運用規程の制定

5) 平成23年度定例理事会の開催

日 時:平成24年3月28日(水) 13時30分～

場 所:東京シティ・エアターミナル(T-CAT) 1階会議室

審議事項:平成24年度事業計画・収支予算、資金運用規程の制定、人事案件(JPC)、定時
評議員会の招集

VI その他

1 障害者スポーツの広報

(1) ホームページによる情報発信

障害者スポーツの普及・啓発に関する情報をはじめ、当協会主催事業の案内・報告、国際大会派遣に関する情報提供などを積極的に行った。

(2) マスメディアへの情報提供

協会主催事業のプレスリリース配布、本協会に著作権のある映像の貸し出し、要望に応じた各種資料の提供、取材先の紹介等の情報提供を行い、報道機会の拡大に努めた。

(3) ポスター、広報冊子・映像等、下記の普及・啓発素材を作成・配布した。

1) ジャパンパラリンピック夏季競技大会、同冬季競技大会のポスター

2) 情報誌「JSAD SPORTS」

- 3) 冊子「歴史と現状」
- 4) 障害者スポーツ映像(協会公式ウェブサイト配信)
- 5) パラリンピック夏季大会の競技紹介 DVD、冊子

2 障害者スポーツを通じた被災地復興活動助成事業

この度の東日本大震災により大きな被害があった地域のスポーツ協会(岩手県、宮城県、福島県、仙台市)に対し、(独)日本スポーツ振興センター「スポーツによる被災地の子どもたちの心のケア活動等支援」事業として、本協会を通じて「スポーツ振興くじ助成」より助成事業を実施した。

《事業内容》

- 1) 岩手県障がい者社会参加推進センター「障がい者スポーツ振興(復興)事業」
- 2) 宮城県障害者スポーツ協会「平成23年度全国障害者スポーツ大会宮城県選手団強化事業」
- 3) 福島県障がい者スポーツ協会「福島県障がい者スポーツ復興支援事業」
- 4) 仙台市障害者スポーツ協会「サッカー交流と障害者サッカー体験会開催事業」

3 会長表彰等

(1) 会長表彰

日 時:平成24年3月7日(水) 16時30分～17時30分

場 所:東京都江東区 ホテル日航東京

表 彰 特別功労章 3名

功 労 章 26名・団体

特 別 賞 19名

(2) 感謝状贈呈式

日 時:平成24年3月7日(水) 18時00分～

場 所:東京都江東区 ホテル日航東京

授賞者 JPCオフィシャルパートナー等 31企業・団体・個人